

名古屋大学大学院環境学研究科・篠田研究室  
プロジェクト研究員公募

名古屋大学大学院環境学研究科・篠田研究室は、乾燥地科学に関わる2つの科研費プロジェクト（以下の参考資料参照）を推進するため、プロジェクト研究員（ポスドク）1または2名を募集します。

1. 専門分野：下記の2つの科研費研究課題いずれかに関わる乾燥地科学分野
2. 雇用期間：2025年4月以降できる限り早期から科研費の期間（毎年更新、最長5年間）
3. 応募条件：
  - (1) 博士の学位を有する人（見込み可）
  - (2) 日本人または日本語でコミュニケーションのとれる方
4. 給与：本人の経歴を勘案の上、名古屋大学の規程により支給。手当・保険なども同様。
5. 勤務場所：名古屋大学大学院環境学研究科（応相談）
6. 応募期限：2025年3月31日  
※応募期限前でも随時選考を行い、採用者が決まり次第、募集を終了。適任者が得られない場合は募集期限を延期。
7. 選考方法：書類審査後、必要に応じて面接を実施。
8. 提出書類
  - (1) 履歴書（写真貼付、連絡先記入、書式自由）
  - (2) 研究業績リスト（論文発表、学会発表、その他に分けて記載。書式自由）
  - (3) これまでの研究の概要と取り組みたい科研費プロジェクトに関わる今後の研究活動（A4用紙1枚程度、形式自由）
  - (4) 応募者について所見を伺える方2名とその連絡先
9. 書類提出先：shinoda.masato.f7@f.mail.nagoya-u.ac.jp（電子メールにて送付）

〒464-8601 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学大学院環境学研究科 篠田雅人  
TEL：052-789-4257

## 【参考資料】

科研費・基盤研究（A）「ユーラシア持続的遊牧ビジョン」2025-2029年、研究代表者：篠田雅人

### （概要）

本研究の目的は、「ユーラシア持続的遊牧ビジョン」の作成である。ユーラシア乾燥地として、その東部、中部、西部に位置するモンゴル、カザフスタン、トルコを取り上げ、異なる自然・社会条件の中で、将来的な気候変動・社会変動シナリオの下、遊牧の持続可能性を問う。本研究の問いは、今後、家畜数を草原の収容力（牧養力）内に収め、草原生態系を崩壊させず牧畜業を存続させることができるのか、ということである。本研究は、①モンゴルを対象に申請者が開発した気候リスクモデルをカザフスタン、トルコの遊牧地域に適用し、これを用いて各地の生態的・経済的持続性を予測する。②政策提言・実装のプロ集団として、生態的・経済的持続性を両立できる2050年の遊牧形態のビジョンを提示する。

科研費・海外連携研究「バイオエアロゾルによる砂漠化の広域評価—新手法の創出」2023-2026年、研究代表者：篠田雅人

### （概要）

世界で唯一遊牧が基幹産業として残っているモンゴル国では、近年の急激な温暖化と乾燥化のなかで、計画経済から市場経済への移行により家畜数が急増、草原の収容力を超え、危機的状況にある。本研究の問いは、砂漠化により草原生態系を崩壊させることなく存続できるのか、その持続性の評価手法は何か、ということである。

当地の砂漠化の主要プロセスである風食とダスト・バイオエアロゾル（生物由来微小粒子）発生は表裏一体の現象であり、土地生産性を支える土壌微生物由来のバイオエアロゾルを調べれば、風食量を評価できる。この新しい発想から、本研究は、①風食により舞い上がったバイオエアロゾルの菌叢解析による土地生産性と風食砂漠化の広域的評価手法を開発する、②遊牧生態系-風食モデルを開発し、これを用いて、表層土壌の風食量を再現、将来予測する。具体的には、植生・土壌・家畜・遊牧様式に関するデータを代表的な植生地域で収集、上記モデルの入力・検証データとして利用し、さらに、土壌・バイオエアロゾルの菌叢、風食量のデータを収集する。様々な気候変動・遊牧様式シナリオのもとでモデル予測を行い、遊牧生態系の持続性を診断する。